



安東氏が築き、入部当初佐竹氏も居城とした土崎・湊城跡。
昭和前期、写真のようなお堀が城跡の面影を伝えていました

発見行

DISCOVER THE WONDERS IN AKITA

秋田市の歴史に伝わる不思議な話、謎、謎、謎...

久保田城下町の核となった 土崎にもうひとつの四百年

高

清水の岡の北西に位置する
後城遺跡。中世以前の土崎
の港に係った町の跡と考

えられるこの遺跡の発掘調査により、
とても興味深い事実が明らかになり
ました。

それは、十五、十六世紀を中心に
栄えた後城の町が、十七世紀にはい
ると、町がなくなってしまうたので
はないかと思うほど陶磁器などの出
土遺物が少なくなり、人々の生活の
跡が認められなくなってしまうとい
うことです。十六世紀と十七世紀の
間を境に、突然、姿を消した中世後
城の町。発掘調査により明かになっ
たこの事実は、どんな歴史を物語っ
ているのでしょうか。

大町、茶町、米町… 土崎が町ごと移転

関ヶ原の合戦の後、常陸から秋田
に国替えとなった佐竹義宣公は、新
しい城を神明山(現在の千秋公園)に築
き、その周囲の荒地や湿地が広が
っていた地域に壮大な城下町を建設

しました。このようにして生まれた新
しい町・久保田が今日の秋田市の原型
になったことは広く知られています。

この新しい城下町建設の大きな柱と
なったのが、土崎の町を町ごと久保田
に移転するということでした。久保田
の町の中で、大町、茶町、米町、酒田
町などが土崎から移った町。また、後
城遺跡で確認された中世の後城町と隣
り合っていた前城町も、久保田の町づ
くりの際に移転し、それぞれ城町、馬
口町町になったと言われています。

この移転は、菅江真澄の「水の面影」
に「跡かたなく久保田へ移転した」と紹
介されているように、まさに、町ごと
そっくり移動したものであり、後城遺
跡の調査成果は、それを裏付けるもの
であると言えます。佐竹氏が秋田へ来
る前の土崎がどんな町だったのかは、
あまりよくわかっていません。しかし、
大町など土崎から移転した町が久保田
城下町の産業経済に大きな役割を担っ
ていたことから、非常に栄えた町であ
ったことがうかがわれ、中世土崎を築
いた安東秋田氏、そして土崎の町の
人々の努力と活力が感じられます。

繰り返される 無限のまちづくり

佐竹氏が秋田へ入部したのは慶長七
年(一六〇二年)。翌八年には久保田城
築城に着手、九年に建都と、歴史的大
事業の幕開けとなりました。

佐竹氏の入部から今年でちょうど四
百年。佐竹氏、城下町である旧久保田
の町にとつて記念すべき年であること
もに、佐竹氏と入れ替わり秋田を去っ
た安東氏、そして町ごとの移転という
困難を通じて久保田建設に大きな役割
を果たした土崎の町にとつても、もう
ひとつの四百年と呼ぶべき歴史の節目
となる年であると言えます。

久保田の町を建設し、今日の秋田市
の発展の礎を築いた佐竹氏と久保田の
人々。そして建都において久保田の核
となった土崎の人々とその町の繁栄を
築いた安東氏。

まちづくりは、長い時の中で繰り返
される無限のリレーであることを、も
うひとつの四百年のドラマが物語って
います。



久保田の町を建設し、秋田市の
発展を築いた佐竹義宣